

6-7

ADL 低下の早期対応の取り組み

ADL 低下予防を測図る

ADL 低下予防

スキルアップ

特別養護老人ホーム 王子光照苑

機能訓練指導員 田中 念

東京都北区王子3-3-1

TEL 03-3927-9851

E-mail: ojikosyoi@ci.mbn.or.jp

FAX 03-3927-9835

URL <http://www.o-kousyoen.com>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

王子光照苑は、昭和63年11月に北区で初めての特養として開設。平成14年には東京23区内で初めてISO9001を取得し、平成17年には「チーム・マイナス6%」に都内福祉施設として初めて参加等、ご利用者をはじめ、地域・社会・環境に貢献している施設です。

<取り組んだ課題>

- 平成18年4月以前から、他職種の共同のリハビリミーティングを導入していたが、今回のケースでは、配置医の整・外のDrや精神科Drにも相談。
- 機能訓練指導員の役割は、利用者のADL低下の早期発見・早期対応をするため、他職種の連携のもと、事前のアセスメントを行い、適切な立案を行うこと。そして、ミーティングを行って妥当性の検討を図る。

<具体的な取り組み>

- 機能訓練指導員は、評価を行い、PTに電話で相談を行い、リハビリ実施を行った。
- 他職種（介護・看護・ケアマネジャー・非常勤理学療法士）とのミーティングを行った。
- 介護側課も協力して、様子観察の申し送りと、可能であれば、移動は、介助歩行を行ってもらった。
- 看護課では、配置医の整・外医を身体面を相談。精神面は、配置医の精神科医にも相談。

<活動の成果と評価>

- 他職種の評価の結果、原因は特定はできなかった。仮説として、廃用性ではないかとのDr（整・外）のコメント。また、精神科医から、精神薬の影響ではないかということで、精神薬の中止。
- 3ヶ月ぐらい経過後、徐々に端坐位、介助立ち上がり・立位、介助歩行が可能にまで改善に向かう。

<今後の課題>

- 家族の中から、リハビリは、少ないという声がある。病院や老人保健施設のリハビリのニーズが高まっていることから、機能訓練指導員の役割の向上が求められているため、さらなるスキルアップ向上に努める課題がある。

<参考資料など>